

# 見守る目

田丸 あけみ

今年は、猛暑の日々が続いていますが、7月13、14日に5歳児は、大きな怪我や事故無く、無事にお泊り保育を終えました。お泊り保育は、子ども達が主となり、一泊二日の生活を考え作っていくことを大切にしています。

5歳児にもなると仲間の意見を聞ききながら、一緒に考えあう事が出来ます。そんなやりとりの中で、自分を見つめ、友達の事も知っていき、自己と他者の考え方の違いにも気づく事ができてきます。時には、保育士が間に入り、子どもの気持ちに寄り添いながら、投げかけたり、一緒に悩んだり、子どもの隣で一緒に悩んだり、考えたりしながら、保育士は何を今、子どもに伝えたいか？何を感じてほしいか、子ども達に問いかけながら、人と人とのやりとりを大事にしています。

私は、子どもと話す中で、教えられる事が多々あります。保育士20年目ですが、子どもが違えば、表現の仕方や個性も違う。毎日、毎年、子ども達から学ぶ事ばかりです。

受験生の娘を見ていると、試験に失敗したくない、学校の生活も内申点がいつも気になり。毎日が本当に生き苦しそうです。私の大丈夫というメッセージも跳ねのけられるほど緊張の日々。そんな娘を見ていると「失敗を許される環境」「緊張感なく安心して過ごせる環境」「自分を気にかけてくれる大人の存在」がどれほど、子どもの心の栄養になることかと感じます。

緊張感のない環境の中でのびのびと自分を表現できたり、時には友達とぶつかりあったりしながら、子ども時代を子どもらしく過ごしてほしいと願っています。

しかし、そんな環境で育っても、心配になることや不安になる事もあると思います。

先日行われた、根っこの集いの中で「アトムでは、丁寧に子どもの気持ちと向き合ってくれるけど、学校へ入学すると、環境は一転する。そのギャップは子どもにとってどうなの？」という発言がありました。その発言に対し、アトムのOB保護者から「確かにアトムと学校とでは、環境の変化にギャップを感じる子もいるかもしれないが、人生を長いスパンで考えた時、アトム時代に自分を認めてもらえたという体験は、子どもが生きていくこれからの人生の中で、心のよりどころになるのではないか。親は我が子を心配するあまり、つい目先の事に不安になりがちだけど、人生長いスパンで物事を考えていく事が大事なのでは」と話してくれました。

乳幼児期の子育ては、本当に大変な時期です。そんな日々だからこそ、子どもが育つ上で大切な事は何か、時折立ち止まって考える事や、色々な価値観を持つ大人同士が、ありのままの自分を語り合う場が大切で、それが子ども達の豊かな育ちに繋がっていくのだと思います。

子どもを真ん中にしながら、広い視野で大人が子どもを見守り、今を生きる子ども達にどんなメッセージを伝えていくか。色々な角度から考えあえる大人集団でありたいですね。